

研究室紹介

岡澤研究室

私たちの学ぶ岡澤研究室では、体育科教育に関する分野やスポーツのメンタルに関する分野で研究を行っています。なかでも、体育科教育の分野では、運動が嫌いな子をはじめとして、すべての子に“やればできる”と



いう自信を持ってもらいたい、そして運動が好きと感じ自ら積極的に運動に参加できるようになって欲しいという強い思いを持ち、研究を行っています。また、そのような思いを同じくする現職の先生方とも意見交換できる場が多くあり、たいへん密度の濃い時間が過ごせるのもこの研究室の魅力です。

現在、研究室では大学院生3名、学部4年生6名、3年生7名というたいへん多くの学生が温和でみんなに好かれるキャラクターである岡澤先生のもとで学んでいます。このように大所帯の岡澤研究室ではみんなが“家族”であるということをもっと大事にしています。誰か一人が苦しまばいい、誰か一人が楽をすればいいということではなく、苦楽をともにしながら付き合っていくというものです。

研究は一筋縄ではいきませんが、一つのことに本気でぶつかり、そして導きだしていくことの楽しさは、この学生時代でしか味わえないものかもしれません。それができるのもこれまで述べてきたような、私たち学生一人一人の強い思いや、研究室という一つの“家族”そしてなにより普段は見せない岡澤先生の熱い情熱があつてのものだと感じています。

記事：大学院1年生 井上 寛崇

クラブ紹介

茶 道 部



流行に身をおいて、若者らしい現代的な恵まれた生活も決して悪くはないけれど、それはいつでもできること。時には作法の中で自分を律し、ストイックな世界の中で四季や形式の美を感じてみませんか？

茶道部では、みなさんが意識しないと得られないもの、得ようと望まなければ手に入らないものを「茶道」という道の中で追い求めていきます。皆さんにもぜひそういう時間を私たちと共有して欲しいのです。そして、その中で得た貴重なものを就職活動や教育現場に生かしていく。そう考えます。たかが「お茶」されど「お茶」の心は奥深いですよ。学年を問わずこの春から入部しようと思っているあなたを心よりお待ちしております。

練習日 毎週水曜日 14:00～16:00

場 所 学生会館2階

記事：茶道部3年生 阪井 香織

みんなが落ち着ける場所<すぎのこ>

障害児教育履修分野3年生 村上 友香

障害児(者)問題研究会すぎのこは、その名のとおり障害児・者問題について勉強するために1960年代半ばに発足しました。ボランティアとしては就学免除・猶予のあった障害児たちへの学習支援が始まりました。その後、社会の変化や、メンバーさんのニーズの変化によって、今は余暇活動支援をメインに行っています。

月一回の活動では、花見や流しそうめんなどの季節行事を企画したり、家族でなかなか行けないというおでかけをしたりしています。メンバーさんの年齢が上がるにつれ、すぎのこに対するニーズはこれからも変化していくと思うので、メンバーさん・学生両方の意見を共有して、より発展していけたら良いと思っています。

障害児・者ボランティアだといって特に構えることはありません。もちろん企画していく上で安全対策や一人一人への配慮を万全にしていけることは必要ですが、参加者・ボランティアの両方楽しく過ごせるというのも大切なことだと思います。すぎのこは、メンバーさん・家族の方・学生が和気あいあいと活動しています。それぞれが楽しく過ごせるすぎのこの場は、みんなにとって大切な場なのではないかと思います。

ボランティアを企画する側として、安全対策や事務的なことももちろん大切なことと思いますが、みんなが過ごしやすい場作り、入りやすい場作りをしていくことも大切なのではないかと考えます。

保育ボランティア募集!!

つながり祭【すぎのこ】

日時：5月13日(日) 9:00～16:00

会場：奈良教育大学 附属小学校

毎年、たくさんの団体や人が参加し、お店を出したりイベントを行ったりして、交流を深めながら楽しんでいます。

つながり祭に奈良教育大学からは、ボランティアサークルすぎのこが中心となり、「子どもの広場」を企画しています。そこでは、保護者の方がお店を出したりイベントを行っている間、子どもたちと一緒に過ごしています。子どもたちの多くは障害があり、一緒に楽しく過ごしてくれるボランティアを必要としています。そこで、一緒に楽しく過ごしてくれるボランティアを募集します。

e-mail: a055528@student.nara-edu.ac.jp

『日本留学事情』

本学在学中の留学生に日常生活で感じたことを書いていただきました。

初めての外国生活

RAKCHON kampanat (タイ)

ラックチョン カンパナート

飛行機が関西国際空港に着陸した瞬間、初めての外国生活が始まったと感じました。そのときには留学生集団の中で、奈良に行く留学生は私一人だけでした。そこからタクシーで寮の前に来ました。ビックリするほど静かで、カラスの鳴き声に歓迎を受けました。そのとき、一番重要なのはコンビニを探すことでした。やっと、見つかりました。大学の前でした。ふっと安心しました。



外国で生活することで一番面白いのは、自分の国と違うことをすることだと思います。自分の習慣も変えなければなりません。違うことはたくさんありますが、二つ取りあげて話します。まず、寮でのごみの分別です。こんなにごみを分別するのははじめてです。毎日出したごみを分別するのは、最初はとても面倒臭いことだと思いました。たとえば、テレビのような電気製品を捨てるのはお金がかかるということを知って聞いてびっくりしました。もう一つの自分の国と違うことは歩くことです。タイ人は長距離のところへあまり歩きません。最初の挑戦が来ました。近鉄まで初めて歩いて行ったときはくたばれて小学生の時の遠足を突然思い浮かびました。平気で歩ける日本人をいつも尊敬しています。

これまで、私はいろいろなところへ行きました。最初は奈良公園でした。奈良に来る前に代表的な動物は鹿だと聞いたことがあります。はじめて奈良に行って、鹿が人を追いかけたり、人の手から餌を食べたりしている風景をみることができました。よく訓練してあるような鹿はいろいろな技があります。よく見るのはお辞儀でした。さすが日本の鹿です。私は東京へも行きましたが、ここ、奈良が大好きです。

外国で毎日新しいものが発見できる生活は何よりも面白い生活だと思います。